

新しい理念と方針と当院の役割について

かみにし みちお

公立昭和病院院長 上西 紀夫

2025年には団塊の世代が75歳に達しますが、この高齢化社会の到来により医療や社会保障にかかる費用も莫大なものになりつつあります。そこで、国では「社会保障と税の一体改革大綱」に基づいて、急性期をはじめとする医療機能の強化、病院・病床機能の役割分担、連携の推進、在宅医療の充実に向けて医療法の改正を行うことになりました。

これまで、医療については急性期、回復期、慢性（維持）期と別れていましたが、その区別についてはあまり明確ではありませんでした。その一方で、診療報酬上で有利などということ、多くの病院が一般急性期病院として届け出ており、回復期や療養型の病床が極めて少ないのが現状です。そこで、国は病院の機能を明確にし、それに適した診療報酬などの手当てなどを行う方向になりました。

現在、年間で110万人の方がお亡くなりになっていますが、その90%近くが病院や施設で看取られており、とくに一般急性期病院でのお看取りも少なくありません。50年前では90%の方は自宅で看取られていたのと大違いです。しかも、2025年には160～170万人の方がお亡くなりになることが見込まれていますが、この増加する50～60万人の方を何処でお看取りをするのが大問題です。これを解決するには、勿論、在宅ケアの推進が必要ですが急に整備するには中々難しい点があります。従って、多くの方が急性期病院に入院することになり、本来の重症の急性期の患者さんを受け入れられなくなって

しまい、医療が崩壊する可能性があります。

このような背景の中、当院では地域における医療の崩壊を食い止めるべく、新しい理念と方針の下に更なる活動を行うことにしました。



◀ 正面玄関に掲示している
新理念

すなわち、「一人ひとりの命と健康を守り医療の質の向上に努め、熱意と誇りをもって地域社会に貢献することを目指します」の理念の下、地域における中核病院として、これまで以上に急性期・高度医療を推進すること、がん診療連携病院としてエビデンスに基づいたがんの予防、診断、治療を行うこと、この2つを大きな目標としました。特に、がんに関しては、この地域ではがん検診の受診率が極めて低く、残念ながら進行してしまった患者さんが少なくありません。そこで、多機能を有し放射線被曝の少ない最新鋭の320列のCTを導入し、がんの早期診断や救急医療の推進に努めることにしました。

もう一つ大事な点は、高度・急性期医療の終わった患者さんの次のステップへの流れです。その流れは2つあり、一つは手術などが一応終わったがまだ少し治療がいる、あるいは糖尿病や高血圧の治療がまだ必要な場合、回復期やリ

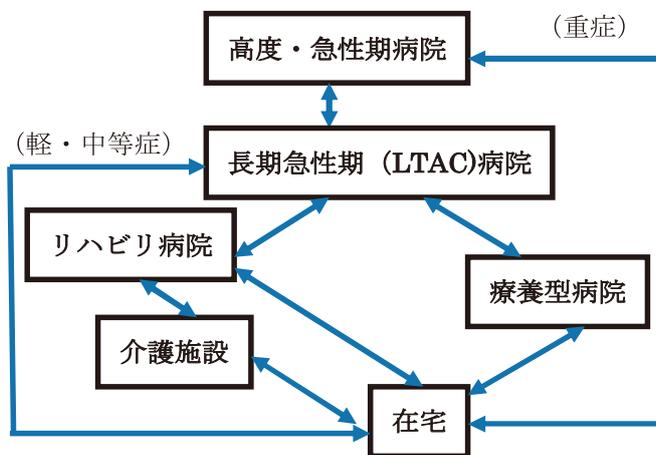
ハビリの病院へ転院する道です。このような状態をポスト・アキュート（急性期後）と呼び、1 か月半前後入院して治療し、落ち着いたら自宅へ退院、あるいは療養型の病院や介護施設に転院することになります。このような病院を長期急性期（Long Term Acute Care：LTAC）病床（病棟）と呼びます。また、この LTAC 病床（病棟）は、比較的軽度な救急疾患（例えば、虫垂炎、胆嚢炎、骨折、肺炎など）も十分に診断、治療できる能力があり、さらに在宅療養をしながら基礎疾患の悪化や肺炎を罹った場合にも受け入れてくれる病院です。実は、このような適切な病院が実際には極めて少ないのが現状です。もう一つは、もちろん、高度・急性期の治療後、元気にご自宅に退院する道です。

当院では、高度・急性期病院として、地域内のお互いの病院の機能を確認、認め合い、情報を交換しながら、スムーズな入院と退院、転院

後の質の高い医療、介護を目指し、地域としてまとまった患者さんに優しい医療を推進したいと思っております。それが今回の理念と方針の目指すところです。

市民の皆様のご理解とご支援をお願いします。

病院・病床機能からみた連携



公立昭和病院からのお知らせ

半日ドックを始めました！

2 時間程度の短い時間で、現在の健康状態を効率良く把握できる人間ドックを始めました。お時間のなかなか取れない方、気軽に健康状態を知りたい方は、是非ご利用ください。

受診日：毎週月曜・火曜・木曜・金曜日 午後 2 時～ 2 時間程度

検査内容：詳細はお問い合わせください。

【お問い合わせ先】 予防健診センター受付

TEL 042-466-1800 (直通)



花のボランティアと花の苗募集

公立昭和病院では、花のある明るい環境作りを行っています。病院を花で一杯にするお手伝いをしていただける方、花の苗を提供して下さる方を募集しています！

花が好きな方でボランティアに関心がある方、花の苗を譲っていただける方は、下記までお気軽にご連絡ください。

活動日：毎月第 1・3(月)と第 2・4(水)午前 10 時～ 12 時

【お問い合わせ先】 TEL 042-461-0052 (代表)

経営企画課：永田、施設係：松村



認定看護師ってなーに？

教育担当副看護部長・認定看護師室長

おおさか つとむ

大坂 勉

認定看護師とは、日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有している看護師です。

認定看護師は、下記の役割を担っています。

- ・実践：患者さん・ご家族に対し、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する。
- ・指導：看護実践を通し、看護職に対し指導を行う。
- ・相談：看護職に対してコンサルテーション(相談)を行う。

公立昭和病院では、認定看護師の育成に力を注いでいます。現在、下表の10分野で14名の認定看護師が活躍しています。



それぞれの分野で、患者さんやご家族の皆さんに対して専門的な知識・技術を発揮して、より質の高い看護を実践し、早期の回復、安心安全な看護の提供に努めています。

さらに、実践を通し、他の看護師の見本となり、職場全体の質向上にも貢献しています。

認定看護師同士も、一人の患者さんについてそれぞれの分野からの意見を出し合い、協力して最善のケアの提供に努めています。

通常の業務以外にも、所属部署を越えた組織横断的な活動を行っています。定期的に病院内をまわったり、他病院へも訪問し、実践指導を行っています。病院内や他病院からの講義の依頼など、教育と相談も担っています。



昨年より、近隣施設の方にも参加していただけるよう認定看護師による公開講座を実施したり、市民向けの公開講座の講師を行ったりしていますので、直接会う機会もあると思います。

また、今年度より看護の質向上を図るため、専門性の高い看護師育成を目指し、院内認定看護師制度(マネジメント・急変対応・呼吸フィジカルアセスメント・緩和・感染・ストマケアコース)を開始しています。

公立昭和病院看護部は、「一人ひとりを大切にしたい最適な看護を提供します」との理念のもと、昭和病院に入院して良かったと思えるよう、看護の質の向上に努めていきます。

認定看護師分野	人数	活動内容
集中ケア	3人	呼吸障害・循環障害の患者さんを訪問し、手術前後の呼吸訓練など早期に回復できるよう支援します。
感染管理	2人	患者さんを感染から守るために、手洗いや手洗い操作の実技指導を行い、感染拡大防止にも努めています。
皮膚排泄ケア	2人	院内の床ずれ予防ケアや、ストーマを保有する方のケアを外来・病棟で行っています。
救急看護	1人	肺蘇生などの指導を、他施設の看護師や保育園で保育士・両親を対象に実施しています。
がん化学療法看護	1人	化学療法治療(抗がん剤)を受ける患者さんへ、副作用対策を含めた支援や講演を行っています。
緩和ケア	1人	痛みや心のつらさをやわらげ、患者さんやご家族がその人らしく生活ができるようサポートします。
脳卒中リハビリテーション看護	1人	脳卒中により後遺症を負った患者さんが、その人らしい人生が取り戻せるよう、早期から支援します。
糖尿病看護	1人	糖尿病透析予防やフットケア外来で患者さんと直接相談を受けたり、方法の指導をさせていただいています。
手術看護	1人	安全・安楽に手術が終えるよう手術前から手術中・手術後までサポートします。
新生児集中ケア	1人	重症な新生児の全身管理と親の心理を理解し、子供との良好な関係を築いていくためのサポートを行います。

リハビリテーション科のご紹介

初めまして、リハビリテーション科です。当科は見晴らしの良い本館6階にあり、天気が良い日は富士山を眺めることができます。全診療科からの依頼を受けており、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の各職種が専門的に関わり、急性期のリハビリテーションを行っております。



～理学療法～

病気やけがによって日常生活に支障をきたした方々に対して、主に基本的な動作能力（寝返り・起き上がり・立ち上がり動作）、歩行などの移動能力の回復を図るリハビリテーションに携わる職種です。早期退院を目標に、患者さん一人一人に対して、関節可動域の改善や筋力強化、基本動作練習、日常生活動作練習、呼吸練習などを状態に合わせて実施しています。

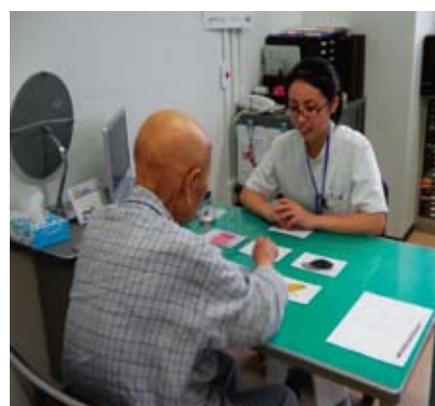
自宅退院予定の方への日常生活動作練習やご家族への介助指導も必要に応じて実施しています。



～作業療法～

作業療法は、上肢・手指機能を中心とした日常生活動作能力（食事・更衣・整容・調理）や高次脳機能障害などを専門分野としております。

主に脳神経外科・神経内科・整形外科に携わらせていただく事が多いですが、早期自宅退院に向け、必要な日常生活動作能力の評価・指導などを幅広い疾患の方々に提供しています。



～言語聴覚療法～

失語症やことばの話しにくさがある方に対して、発声・発話練習を行い、コミュニケーション能力の向上を図ります。また、食べ物の飲み込みにくさがある方に対しては、嚥下練習を行い美味しく食事が食べられるよう支援しています。更に必要に応じ、認知・高次脳機能検査、評価を行い患者さんやご家族が地域社会において円滑なコミュニケーションが図れるよう援助もしています。

患者さんやご家族の視点に立ち、地域との連携を図りながら、質の高いリハビリテーションを提供していけるよう、スタッフ一同切磋琢磨していきたいと思っております。

今後とも、リハビリテーション科をよろしくお願いいたします。